

第 626 回

日本小児科学会東京都地方会講話会

プロ グ ラ ム

日 時 平成28年3月12日(土) 午後2時00分

場 所 飯田橋レインボービル7F大会議室



演題の申し込みについて

- ホームページの演題申込用紙にご記入の上 e-mail で事務局宛送ってください。
- 抄録(160字以内)をおつけください。
- 原則として指定発言をつけてください。
- 演者、指定発言者は、ご発表の月末までに二次抄録(200字以内)をe-mailで事務局宛お送り下さい。(日本小児科学会誌掲載の為)

世話人

- 高橋 浩之
東邦大学医療センター大森病院小児科 03(3762)4151
(FAX) 03(3298)8217
- 東海林宏道
順天堂大学小児科 03(3813)3111
(FAX) 03(5800)0216
- 03(5388)7007
e-mail: jpstokyo-office@umin.ac.jp

第 626 回 日本小児科学会東京都地方会講話会演題

(1題 6分、指定発言 5分、追加討論 3分以内、厳守のこと。○印演者)

第 1 グループ 14:00—14:20

座長 早乙女 壮彦（東邦大学医療センター大森病院小児科）

1) 反復する誤嚥性肺炎を契機に診断された血管輪の 1 例

○寶月 啓太¹⁾、中野 克俊¹⁾、笠神 崇平¹⁾、進藤 孝洋¹⁾、清水 信隆¹⁾、尾崎 晋一²⁾、平田 康隆²⁾、平田陽一郎¹⁾、犬塚 亮¹⁾、岡 明¹⁾（東京大学小児科）¹⁾、（同 心臓外科）²⁾

8か月男児。5か月頃より喘鳴著明となり、8か月までに誤嚥性肺炎にて4回の入院加療を行った。精査にて右大動脈弓・左動脈管索・左鎖骨下動脈起始異常の診断に至り、動脈管索切離術を施行した。以降症状は改善を認めている。診断には造影 CT が有用で、内腔の描出されない動脈管索の存在も Kommerell 懇室の形状より示唆された。

2) 不明熱の鑑別に腹部血管超音波検査が有用であった高安病の 12 歳男児例

○野沢 永貴¹⁾、小椋 雅夫²⁾、西 健太朗¹⁾、室伏 佑香¹⁾、木内善太郎³⁾、前川 貴伸¹⁾、宮坂実木子⁴⁾、伊藤 秀一⁵⁾、石倉 健司²⁾、窪田 満¹⁾、石黒 精⁶⁾
(国立成育医療研究センター総合診療部)¹⁾、(同 腎臓・リウマチ・膠原病科)²⁾、(杏林大学小児科)³⁾、(国立成育医療研究センター放射線診療部放射線診断科)⁴⁾、(横浜市立大学大学院発達成育小児医療学)⁵⁾、(国立成育医療研究センター教育研修部)⁶⁾

症例は 12 歳男児。不明熱の精査目的で当院を紹介受診。腹部超音波所見で腹腔動脈の狭窄と上腸間膜動脈壁の肥厚を認めたことを契機に高安病の診断に至った。自験の同疾患 8 例を後方視的に検討したところ 7 例に腹部血管超音波で同様の所見を認めた。超音波による腹部血管の観察は不明熱の鑑別に有用で、高安病の早期診断の一助になり得る。

第 2 グループ 14:20—15:05

座長 大石 芳久（日本赤十字社医療センター小児科）

3) 幼児期早期に結石破碎術を施行した尿管結石の 1 例

○水落 清、佐藤 友哉、松丸 重人、中務 秀嗣、竹下 曜子、平澤 恭子、永田 智
(東京女子医科大学小児科)

超早産、超低出生体重児、慢性肺疾患 (CLD)、肺高血圧症 (PH) の既往を有する 2 歳男児。長期の在宅酸素と利尿薬により管理されていたが、8か月から血尿を認め、2歳には高度両側腎尿管結石と左水腎症を呈し、尿管結石破碎術を要した。CLD、PH を伴う児の管理における尿路結石と治療に関し、文献的考察を加え報告する。

指定発言 家後 理枝（東京女子医科大学泌尿器科）

4) ネフローゼ症候群のステロイド治療中に発症した 15A 型肺炎球菌性敗血症の 1 例

○清水真理子、有馬ふじ代、小川 恵梨、鳥居 健一、河津 桃子、簗生なおみ、佐藤利永子、鈴木 絵理、土橋 隆俊、込山 修
(国立東京医療センター小児科)

13 億の肺炎球菌ワクチン接種後の 1 歳男児。浮腫、蛋白尿を認め、ネフローゼ症候群と診断しステロイド治療を行っていた。入院 13 日目に発熱を認め、敗血症を疑い CTX で治療を開始した。血液培養から 15A 型肺炎球菌が検出され、抗菌薬を 2 週間投与した。予防接種後の肺炎球菌性敗血症について現状を交えて発表する。

指定発言 岩田 敏（慶應義塾大学感染症学教室）

5) 13歳で初めて細菌性髄膜炎を発症した先天性内耳奇形の1例

○山崎 皓平¹⁾、藤野 元子²⁾、天野 直子²⁾、岩田 敏³⁾、荒木 清²⁾
(東京都済生会中央病院臨床研修室)¹⁾、(同 小児科)²⁾、(慶應義塾大学感染症学教室)³⁾

先天性右内耳奇形を有する13歳男子。耳痛、頭痛、嘔吐を主訴に来院した。血液・髄液培養で肺炎球菌（莢膜型18C）が陽性、側頭骨CTで右乳突洞に液体貯留を認め、髄液漏を伴う細菌性髄膜炎と診断し、加療した。再発防止目的に、後日右内耳窓閉鎖術を行った。先天性内耳奇形は青年期でも細菌性髄膜炎のリスクファクターである。

指定発言 泰地 秀信（東京都済生会中央病院耳鼻咽喉科）

休 憩 15:05—15:15

総会及び名誉会員証授与式 15:15—15:30

平成28年度 名誉会員 早川 浩先生

感染症だより 15:30—15:50（講演：15分＋質疑応答：5分）

座長 岩田 敏（慶應義塾大学感染症学教室）

神谷 元（国立感染症研究所感染症疫学センター）

教育講演 15:50—16:35（講演：40分＋質疑応答：5分）

座長 石黒 精（国立成育医療研究センター）

ガイドラインから学ぶ－川崎病50年の進歩と課題－

鮎沢 衛（日本大学医学部小児科学系小児科学分野）

川崎富作先生の原著掲載から昨年で50年を経過し、「川崎病」は今や小児医療において急性発熱性疾患として、また小児の後天性心疾患の原因として中心的な位置を占めている。診断、急性期治療、遠隔期のガイドラインが作成され、治療法は様々な経緯の中で進歩して心合併症は減少してきた。これらの進歩の軌跡を見直し、原因究明、不全型への対応、不応例の治療、合併症の完全阻止など残された課題について考えたい。

第3グループ 16:35—17:20

座長 高木 優樹（東京都立小児総合医療センター内分泌・代謝科）

6) ろ紙血提出の遅れにより診断・治療が遅れた先天性副腎皮質過形成症の1例

○小田嶋仁美、香山 一憲、安藤 正恵、鈴木 琢真、長野 伸彦、田口 洋祐、吉川 香代、細野 茂春、高橋 滋、高橋 昌里
(日本大学板橋病院小児科)

日齢12の新生児。哺乳不良と体重減少を主訴に入院した。陰嚢の色素沈着、高カリウム血症、17-OHP 88 ng/ml から先天性副腎皮質過形成症と診断した。マスクリーニングろ紙血採血は日齢5に行われていたが日齢11に発送されたため早期発見できず症状が進行し集中治療を要した。採血・乾燥後直ちに提出することが重要である。

指定発言 石毛 美夏（日本大学小児科）

7) 下肢痛にて発症した壊血病の1例

○瀬谷 恵¹⁾、半田淳比古²⁾、松井 俊大¹⁾、吉本 優里¹⁾、長谷川大輔¹⁾、小澤 美和¹⁾、
真部 淳¹⁾、草川 功¹⁾ (聖路加国際病院小児科)¹⁾、(同 放射線科)²⁾

極端な偏食があり、こだわりの強さを指摘されている5歳男児。1ヶ月前から両側の下肢痛があり、徐々に歩行困難となった。単純X線写真・下肢MRIより壊血病が疑われ、血液検査でビタミンC濃度が基準値以下であることを確認し、診断に至った。複合ビタミン剤の内服を開始後より、徐々に下肢痛が改善し、歩行が可能となった。

指定発言 野崎 太希 (聖路加国際病院放射線科)

8) 乳歯早期脱落を機に受診し低ホスファターゼ症（歯限局型）と診断した1例

○田嶋 華子¹⁾、根本 晴子²⁾、佐々木元子³⁾、伊藤 保彦¹⁾、
(日本医科大学小児科)¹⁾、(日本大学松戸歯学部小児歯科)²⁾、(日本医科大学遺伝診療科)³⁾

低ホスファターゼ症 (HPP) は組織非特異的アルカリホスファターゼ (TNSALP) 欠損により骨・歯の石灰化障害を呈する先天代謝異常症である。症例は9歳男児で生後11か月から乳歯の自然脱落が始まった。前医（歯科）で血清ALP低値（9歳で310 IU/L）であったため紹介となった。尿中ホスフォエタノールアミンは上昇しており、遺伝子解析の結果HPP（歯限局型）と診断した。

指定発言 渡邊 淳 (日本医科大学遺伝診療科)

第4グループ 17:20—17:45

座長 松岡 正樹 (東邦大学医療センター大森病院小児科)

9) 在宅医療機関との緊密な連携のもと終末期在宅療養を実現できた悪性視神経腫瘍の1男児例

○田原 麻由¹⁾、山岡 正慶¹⁾、大山 亘¹⁾、横井健太郎¹⁾、秋山 政晴¹⁾、前田 浩利²⁾、
井田 博幸¹⁾ (東京慈恵会医科大学小児科)¹⁾、(あおぞら診療所)²⁾

視力低下から診断に至った視神経腫瘍の9歳男児。視神経膠腫と診断し化学療法を開始するも多発種を来たし、高悪性度神経膠腫に対する治療にて寛解を得るも再燃し発症から約2年の経過で死亡。この間、全盲、意識障害など全身状態不安定な中、在宅医療施設と家族との緊密な連携により約7ヶ月を自宅で過ごすことが出来た示唆に富む症例である。

指定発言 柳澤 隆昭 (東京慈恵会医科大学脳神経外科)

10) 外科的治療が奏功したSPINK1 遺伝子異常による慢性脾炎の1例

○時田 万英¹⁾、箕輪 圭¹⁾、鈴木 光幸¹⁾、遠藤 周¹⁾、安部 信平¹⁾、藤井 徹¹⁾、
春名 英典¹⁾、工藤 孝広¹⁾、古賀 寛之²⁾、崔 仁煥³⁾、石崎 陽一⁴⁾、山高 篤行²⁾、
清水 俊明¹⁾ (順天堂大学小児科)¹⁾、(同 小児外科)²⁾、
(同 消化器内科)³⁾、(同 肝胆脾外科)⁴⁾

9歳男児。SPINK1 遺伝子異常による慢性脾炎。4歳頃から脾炎発作を繰り返した。腹部CTで主脾管および脾頭部分枝脾管内に脾石が充満していた。脾液流出路確保のため脾管ステント留置を試みたが、ガイドワイヤーの挿入が不可であった。脾管空腸側々吻合術を行い、難治性腹痛は消失した。脾炎関連遺伝子による反復性脾炎の治療方針について考察する。

【運営委員会だより】

- 平成 28 年 3 月講話会（第 626 回）のプログラム編成について報告がありました。
- 3 月の講話会の教育講演について講師と座長が確認されました。
- 次期プログラム委員を順天堂大学小児科の田久保憲行先生にお願いすることになりました。
- 3 月に開催される総会の議案について確認されました。
- 東京都地方会で作成する「緊急時を念頭にしたメーリングリスト」について、これまでに 342 名（全会員の 15 %）の登録があったことが報告されました。
- 2 月の講話会出席者は 491 名、ベビーシッタールーム利用者は 4 名、今月の新入会者 14 名、退会者は 11 名でした。
- 次回は平成 27 年・28 年度運営委員による合同委員会となります。

【演題の申し込みについてのお願い】

- 動画が含まれる場合には、その旨を明示して下さい。動画使用の場合には、具体的な注意事項を、折り返し事務局よりご連絡いたします。
- 原則として指定発言をつけて下さい。
- 演題の締切は次のようになります。

| 講話会開催月 | 演題締切 | 講話会開催月 | 演題締切 | 講話会開催月 | 演題締切 |
|----------|--------------|--------|--------------|--------|----------|
| 平成28年 1月 | 前年 11 月 30 日 | 2 月 | 前年 12 月 25 日 | 3 月 | 1 月 31 日 |
| 4 月 | 2 月 28 日 | 6 月 | 4 月 30 日 | 7 月 | 5 月 31 日 |
| 9 月 | 6 月 30 日 | 10 月 | 8 月 31 日 | 12 月 | 9 月 30 日 |

申込演題が 12 題以上になった場合、さらに 1 回先になることがありますのでご了承ください。

その場合、事務局よりご連絡します。

【演者の先生方へのお願い】

- 一次抄録は 160 字以内に。また、二次抄録は日本小児科学会雑誌に掲載されますので規定の 200 字以内を厳守くださるようお願いいたします。（原稿はワード入力で e-mail にて事務局へお送り下さい。）
- 出席した会員に発表の意味をより強く、明確に伝えるために、最後（または適切な時期）に Take Home Message（この発表から学ぶこと）を手短な一文で記したスライドを付け加えていただくようお願いいたします。

【会員登録事項の変更届についてのお願い】

- 自宅、勤務先の住所（プログラム送付先）等の変更または、改姓があった場合は、速やかに東京都地方会事務局までご連絡下さい。
- 退会される場合も必ずご連絡下さい。そのお届けがない場合は次年度も継続として年会費の請求を致します。

東京都地方会事務局 e-mail : jpstokyo-office@umin.ac.jp / FAX : 03 (5388) 5193

【事務局よりご連絡】

- 日本小児科学会学術集会の開催が 5 月の為、第 627 回東京都地方会は東京女子医科大学弥生記念講堂にて 4 月 23 日（第 4 土曜日）に開催し、5 月を休会と致します。尚、平成 28 年度年間スケジュールは、4 月講話会プログラム郵送時に同封致します。
- 「緊急時を念頭にしたメーリングリスト」御登録に際しては、jpstokyo-kinkyu-group@umin.ac.jp まで、件名にお名前および可能な範囲で施設名をご記入いただきお送りください。尚、既に上記メールアドレス宛にメールを頂いている先生は、登録済みです。詳しくは東京都地方会ホームページの「お知らせ」より、メーリングリスト作成ご協力のお願いをご覧ください。

Presentationについて

発表は Computer Presentation (Windows) のみで受け付けます。Powerpoint 2000 以上で作成、Font 文字は Powerpoint 備え付けのみ。CD-R もしくは USB メモリーにて、第1、2 グループ発表者は午後1時30分までに、第3 グループ以降の発表者は午後3時までにスライド受付まで持参して下さい。機器操作は、当方で行います。あらかじめウイルス check をお願ひいたします。

動画について

動画の発表にはトラブルが多いため、下記の方針をご理解いただきますようお願い致します。

- ① 一般演題での動画の使用はできる限りお控えいただくようお願い致します。
- ② 動画の使用が不可避と考えられる場合、ファイルのセーブ法などの注意事項がありますので、学会事務局に必ず事前にご連絡ください。
- ③ ②の場合にも、動画の映写にトラブルがあったときに備え、静止画像のみで構成された代替パワーポイントファイルをご用意下さい。当日、動画の映写が不可能と判断された場合には、代替パワーポイントファイルを用いて、時間通りに学会を進行させていただきますことをご了承下さい。

〈ベビーシッタールーム開設のお知らせ〉

乳幼児を同伴される方のために、ベビーシッタールームを開設します。利用ご希望の方は、利用日の1週間前までに事務局へお申し込み下さい。申し込みの際、お預けになるお子様の氏名・年齢・性別・および預けられる時間帯を伺います。利用当日、お子様が好きな食べもの・飲料・おもちゃ・着替え・おむつなどに名前を付けてご持参下さい。また申し込み受付後、問診票に記載していただきますことをご了承下さい。キャンセルされる場合は、3日前までにご連絡をお願いします。なお費用は学会が負担いたします。

日本小児科学会東京都地方会事務局 TEL 03-5388-7007/FAX 03-5388-5193

月刊誌 「小児科臨床」 のご案内

月刊誌「小児科臨床」は、1948年創刊以来一貫して小児科学の投稿誌としてのスタンスを守り、若い小児科医の研究発表の場として活用されています。

弊誌は増刊号を含めて年間13号を発刊し、小児医療・小児保健に関わる多くの先生方から、日常の臨床に役立つ雑誌としてご好評頂いております。

編集顧問

藤井良知・加藤精彦・早川浩

(第67巻2014年)

増刊

幼稚園保健2014

編集委員

別所文雄・水口雅・岩田敏・松山健

12号 特集

子どもと食2014

発行

月刊(毎月20日発行・土日祝は繰り下げ)

(第68巻2015年)

4号 特集

私の処方2015

増刊

これから的小児医療

—小児科医はどこに向かうのか—

12号 特集

小児感染症2015

—小児感染症のマネージメント—

定価

普通号(年10回) 本体 2,600円+税

特集号(年2回) 本体 4,700円+税

増刊号(年1回) 本体 6,200円+税

年間購読料(前納) 本体 41,600円+税

